



### 感染症軽症者宿泊所へ出務協力

岩本 里織 教授

新型コロナウイルス感染症パンデミックによる医療崩壊を防ぐこと、感染拡大を防ぐために、神戸市では4月11日からポートアイランドに新型コロナウイルス感染症軽症者宿泊所(以下、軽症者宿泊所)が開設されています。神戸市看護大学においては、神戸市からの要請もあり、看護師・保健師等の免許を有した教職員の有志が24時間交代(6月以降は夜勤のみ)で軽症者宿泊所の看護業務に協力しています。入所者に対して電話で体調をお伺いしながら、症状の悪化がないか、制限ある療養生活による精神的負担がないか等をアセスメントし、必要な療養生活のサポートをさせていただいております。

また、本軽症者宿泊所に必要なマニュアル整備などにも協力をさせていただきました。6月初旬には、いったん入所者が0になりほっとしたのも束の間、すぐに神戸市内の感染者が確認され、現在にかけて多くの軽症者・無症状の方が入所されておられるため、私ども教職員も継続的に協力させていただいております。

軽症者宿泊所の業務を実施していただける方を募集すると、とても多くの教員が手を上げてくださいます。4月からWEB授業準備や看護学実習調整等で通常よりも多忙な業務が続く中、“看護職として役に立ちたい”という「使命感」を持ち、協力を申し出てください。教員ばかりで本学の先生方のすばらしさを改めて感じております。また、軽症者宿泊所の看護活動の経験を生かして、4年生の総合実習の一部として、軽症者宿泊所の看護を考える演習やタイベック装着の演習を実施しました。



【総合実習:特別講演】  
4年生対象の新型コロナウイルス感染症軽症者療養施設における看護ケアに関する特別講演より



### いちかん応援メッセージプロジェクト

二宮 啓子 教授



緊急事態宣言が出され、外出自粛の中で、看護学生として「こんな時だから何かしたい」と考えている学生が新型コロナウイルス感染症患者への応援メッセージの作成という形で参加できるプロジェクトを計画しました。参加者を募ったところ、可愛いイラストや個性あふれるメッセージが集まりました。それらで軽症者入所施設の共有スペースの壁に貼るポスターを作成しました。応援メッセージを見た患者さんが喜んでくれているとの報告を頂きました。

「手作りマスクを作るというのは、今私たちができることの一つであると思うため、機会があればやってみたいと思っています」「材料があまりなく数枚作っても寄付まではできないかなと思っていたので、いちかん全体での寄付という形で参加できるというこのご提案はとても嬉しいです」

これは、4月24日(金)の2年生と3年生の講義後に「マスクを作って必要とされる方へ送付することをどう思うか」を尋ねた時の学生の声の一部です。そして、この声を受け止め、全学年にマスク作りの参加を呼びかけました。5月上旬には、学生から希望枚数の連絡が次々とあり、教職員のカンパを募りマスクの材料を揃え、発送しました。5月下旬には、送付しただけでなく、家族で材料を揃えて作ったという40枚以上のマスクも大学に届き始めました。これらのマスクには学生の直筆のメッセージが添えられ、軽症者療養施設を退所される患者さんに148枚をお届けしました。

患者さんからは、「マスクを買おうと思っていたので、嬉しい」という喜びの声を頂きました。また、日頃お世話になっている教育ボランティアの方々に80枚を送付致しました。参加した4年生は「ミシンを初めて使ったけれど、楽しく作れた」といきいきと語ってくれました。学生は自粛生活が長引き、慣れないオンライン講義での学習を余儀なくされた中であっても、「誰かの役に立ちたい」という思いを行動に繋ぐ力を見せてくれました。この経験は、近い将来看護職となった時に、礎になると確信しています。協力して下さった学生の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。



## オンライン授業への対応

### 人間科学領域

山内理恵 教授

今年度前期は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2年生以上は4月8日、1年生は4月20日に授業開始となりました。他大学と比較して本学の授業開始時期が早かったのは、混乱の中でも教職員が一丸となって対策に取り組んだおかげでしょう。また、人間科学領域では、多くの非常勤講師の先生方にオンライン授業や遠隔授業の実施にご協力いただきました。この場を借りてお礼を述べたいと思います。

### 専門基礎科学領域

谷 知子 教授

新入生を迎えた新年度早々、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業が早い時期から開始となりました。不安を抱えての初めてのオンライン授業では、ひたすらパソコン画面に向かって説明していました。慣れてくると楽しく理解してもらえるような工夫を考える余裕ができました。ただ、学生さん達の表情や反応を見ながら授業できない事がとても寂しく、改めて対面授業の楽しさや大切さを知り、安心して対面授業ができる日を楽しみにしている今日この頃です。



学部長 江川 幸二

本学では早期から新型コロナウイルス感染症に関する授業対策や社会貢献、および学生支援を行ってきました。上記の取り組みの他にも、兵庫県や神戸市の新型コロナウイルス感染症電話相談窓口で教員や大学院生等が出務し、県民・市民の不安に寄り添ってきました。

また学生支援として、オンライン授業実施に伴う通信料金や教材印刷等の新たな負担軽減のため、入学金・授業料の延納・分納制度の実施や、一律にQUOカードを配布するなど本学独自の支援を行いました。さらに国の学生支援緊急給付金を、可能な限り多くの家計収入減の学生が受けられるようにし、75名の学生が支援を受けることができました。新型コロナウイルス感染症の成り行きは不透明で、今後もさらなる社会的影響をもたらす可能性があります。この未曾有の出来事に対し、今後も教職員一同が力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。